

大分県 現代俳句協会 会報

第121号

令和2年12月29日



現代俳句歳時記 【霜柱（シモバシラ）】

氷点下の冬の夜、土中の水分が地表にしみ出て柱状に凍結したもの。踏むとサクサクという小気味いい音がする。昔はどこでもみられたが、舗装とヒートアイランド現象でめったに見られなくなった。

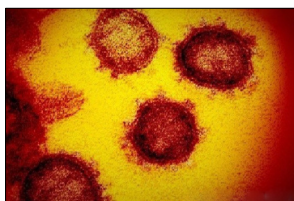
霜柱どの一本もめざめをり

加藤楸邨

令和3年の第31回総会は

議案書送付の通信総会に変更

本年3月1日の県協会30周年記念行事は、本部中村和弘会長の出席を得て成功裡に終了することができましたが、それ以降は歴史的なコロナ騒動に巻き込まれて、吟行大会をはじめ数々の会議、行事が中止を余儀なくされました。県協会実勢の上げ潮の中で「県下に打って出る」という総会決定が十分に終わったことを、幹部会一同残念に思っています。いわゆる「コロナ禍」は、病気としてのコロナ感染



症の恐怖よりも、万一感染した場合の世間の目が怖いというデリケートな側面を含んでいます。そのため当協会としても、最大公約的な無理のない活動に留意してきました。幹事会と役員会は、今年はいずれも一堂に会するのではなく、文書で連絡を取るという方法での開催となりました。方向性は「コロナで活動を停止するのではなく、困難なかでも、いかにすれば協会の前進をはかれるか」と言うことにつきます。この視点で今年の活動を総括し、来年の活動方針を立てました。その結果来年2月に予定している第31回総会は文書で行うこと、同時開催の現代俳句大会は切り離し、開催のあり方を探ることなどの方針を決定しました。

コロナ禍二〇二一年の協会運営を模索

通信で幹事会、役員会を開催 役員会が幹事会報告を承認

令和2年度役員会決定内容

今年の役員会は通信形式で行われ、協会主催句会の状況や会員拡大の活動報告を承認し、次年度の活動方針を決定しました。

大分県現代俳句大会の開催について

従来は総会と同時開催していたが、今回は総会が通信になったため、総会と切り離して開催する。協会本部会長などの招聘は、スケジュール的に無理であるので行わない。

本部や他の俳句団体の活動の動向をみると、2月中の集まりはおおむね中止で、3月になると飲食をとまなう懇親会などはやめ、集会のみを開催するところが増えている。

しかしこの傾向はワクチンの接種等に大きく影響され、現状では予測ができない。大会を開催するには会場の予約や、印刷物の作成、大会選者の選定、行政やマスコミ各社の協賛をとるなどのさまざまな準備が必要なので、時期や規模をいま決めることは困難である。

県協会が大分県俳句文化に大きな

役割を果たすために、3月以降のできるだけ早い時期に開催したい。開催の形態は通信か、実集会であるかはまだ未定である。

広く県下に応募を広げ、希望者には「添削助言」などのメリットやサービスを検討する。

大会要項が決定次第、会員に知らせ、協力を要請する。

吟行大会、勉強会、新設句会等

目処が立ち次第、極力開催する。チャンスがあれば役員が自主的に開催するのも可。活動方針に沿うものであれば、事後に必要な経費の一部もしくは全部を支払う

ホームページの充実

若い人を取り込むには欠かせないツール。スマホ対応が望ましい。会員の中からスキルのある人を、積極的に登用したい。努力目標とする。

オンライン句会

コロナ対策にもなり、会員相互、一般の人と協会を繋ぐために、できるだけ早期の実現を目指す。

初心者会員育成の制度化

新会員はもちろん、従来の会員で

選評をいただけるようになってきた。俳句の多様性を維持、推進していくためこの方向を深掘りしていきたい。また県下の俳句文化の向上という点で、大分県俳句連盟との交流を維持、深化させる。組織的参加は現状では考えない。

他団体との交流

句会報で紹介の通り、他県現代俳句協会の方などより、雑誌・自薦句の選句



ピラカンサ

令和2年自薦作品 高得点句

≪12点句≫

衣被つるんと母の顔になる

足立 町子

≪11点句≫

片減りの砥石や春の海を寝せ

河野 輝暉

≪10点句≫

扇風機廻せば過去も廻り出す

河野 則子

≪9点句(2句)≫

芒野に抱かれ溺れてしまいそう

足立 攝

捨てられぬ歳月を負い草むしる

谷川 彰啓

≪8点句(2句)≫

晩年の影を地に置く石露の花

谷川 彰啓

軍服をいまだ脱げない兄の夏

有村 王志

≪7点句(3句)≫

天の川きれいな嘘の相聞歌

上田たかし

友のいない余生にちろ啼きにくる

成清 正之

廃線を呑み込んでゆく芒原

平田千代子

≪6点句(6句)≫

手火花が尽きたら別れ切り出さう

小野 智輔

初蟬や少年の日のこぼれ出す

菅 攝子

二死満塁寂然と飛ぶ赤トンボ

井元 扇岳

兜太の蟹いまだかつかつ爆心地

有村 王志

なんとなく水に近づく秋思の歩

成清 正之

コスモスの高さに風が吹いている

飯田 幸子

≪5点句(10句)≫

地球儀の芯のぐらつく感染症

宮川三保子

扇風機躍る阿呆になつてゐる

田口 辰郎

海よ哭け辺野古梯梧に染まる日は

田口 辰郎

鬼灯を手折りて墓に灯をともし

永松左世美

ひっそりと村の空屋を照らす月

谷川 彰啓

春キャベツ不要不急の貌でいる

有村 王志

ウイルスが暮らしの音を消して秋

坂本 一光

茶の花や日向に母の居るやうな

森山 秀子

出口なき街に九月の蟬時雨

足立 町子

遠き日の君待つ駅舎木の実落つ

飯田 幸子

≪4点句(7句)≫

枯葉とぶ命の音を残しとぶ

菅 攝子

悪女にはもう戻れない酔芙蓉

足立 攝

反核へうねる残暑の爆心地

下司 正昭

田を植えて村は光の万華鏡

御手洗豊海

芋煮会眠つた町が動き出す

上田たかし

幾つもの過去を切り取る曼珠沙華

田代 直之

ものの芽や死後の仕度のととのわず

田中 充

以上4点句まで掲載しました。全ての作品はこの会報と同時発行の、句会報第12号に載っています。

また、令和3年度の第1回雑詠句会の作品を募集しています。詳しくは本会報6ページをご覧ください。

会費納入のお願い

当協会の年会費の納入期限は、規約15条で「二月末日までに」と定められています。郵便振込用紙を同封していただきますので活用下さい。

なお第30回総会で会費規約の細則が設けられ、家族会員について、「家族会員（夫婦、親子など同一所帯に複数の会員がいる場合）は、二人目からは会費を半額にする」という規定が加まりました。該当する方は、会費振込時に「」注意下さい。

今回の振込用紙は、金額のらんが空欄になっています。振込用紙の「通信欄」に明細を書いていただければ、会費数年分でも、会費と発展基金寄付が一緒でも、合計が間違いないければ受け付けます。その際の「依頼人」のらんは、代表の方一名でかまいません。

令和3年分会費が納入済みの会員は以下敬称略で、木原万作、田口辰郎、長谷川正伸、谷川彰啓、大川千明、大神愛子、倉追順子、成清正之、瀬川剛一、甲斐素純、甲斐千恵子、甲斐加代子、吾亦紅、久枝花城、梶原千代、加藤征孝、井上治、伊藤利恵の各氏です。

会員の受賞等

県内外における会員の活躍を紹介します。情報を事務局にお知らせください。なお、現代俳句全国大会の会員の受賞者は、次号に掲載します。

第67回長崎原爆忌平和記念俳句大会

俳句大会

【大会大賞】

八月の誰も降りない縄電車

田口 辰郎

【長崎新聞社賞】

兜太の蟹いまだかつかつ爆心地

有村 王志

神話のふるさとみやざき

全国俳句大会

【選者特選】

永らえておれば蚯蚓も亀も鳴く

成清 正之

産土をスカンポ囃みつ兜太来る

河野 輝暉

高千穂峽の発光体となる神楽

谷川 彰啓

【選者入選】

わらび野をいつか乗る日の雲がゆく

成清 正之

他を植えてあまたの星を喜ばす

選者 一人選 足立 町子

ゆつくりと荷を置く汗の男かな

坂田 正晴

鰯雲八紘一字の塔の空

吾 亦紅

夜神楽の神を飲み干すかつぽ酒

選者 一人選 木村 弘治

第55回子規顕彰全国俳句大会

【稲畑汀子入選】

大根引く地球と力比べして

甲斐 素純

甲斐素純氏が出版

郷土史

家として

も有名な

甲斐素純

氏（宝八

幡宮司）

がこのほ

ど「山浦

苔並びに

菊池苔・

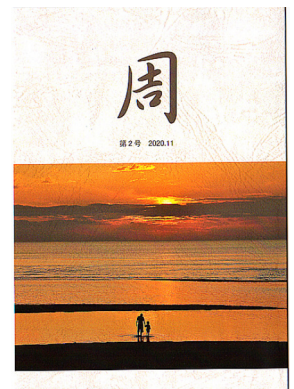
紫金苔」

「九重産

の硫黄」の二冊の本を出版しました。

また、玖珠郡史談会の会報80号に

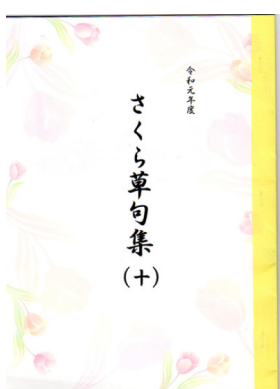
「森藩」歴史余話を寄稿しました。



横山康夫氏が「周」2号を発行

本誌119号で紹介した「周」創刊が号に続き、11月に第2号が発行されました。

くらがりを出て半身は花あやめ
ゆく夏の記憶に雨の人攫ひ
おもかげを追うて晩夏の昏るる海



本誌6ページのさくら草句会が、一年間の活動をまとめた「さくら草句集10号」を発行しました。

今年は結成10周年にあたり、活動の軌跡も紹介しています。

「私と俳句」 上田たかし

昭和三十三年四月、大分少年院（豊後大野市三重町）に新院長が着任した。これまで少年たちの心情安定を促す一方法として、音楽・絵画の指導が行われ、その効果も認められてきた。しかし非行態様も変化してきており、心の奥に潜む不安定要素を取り除くことが何よりも大切で

あると思われていた。新院長が求めた対策に応えるものとして、心の動きを把握するために俳句指導を追加したらどうかという提言があった。提案者は俳人でもあり、自分の体験に基づいたものだったが、ほかに職員の中に俳句の指導ができる者はなく、外部の人に職員の指導をお願いすることになった。

幸い三重町に俳句指導者として、多くの俳人を育てておられた足立雅泉氏がいたので、施設の現状を伝えて指導をお願いしたところ、快諾され、月一回の指導が受けられるようになった。

その当時は、受講した職員全員が教科書程度の知識しかなく、なかなか前に進めず苦月の連続だったが、受講六ヶ月を過ぎたあたりから、俳句になっているとの評をいただけるようになった。

一年後、一緒に受講した仲間が職務の変更や病気などで

次々と退会して、私一人が残る羽目になった。これでは講師の雅泉先生に申し訳ないと、先生が属していた三重句会に入り、本格的に勉強することになった。自分自身が学びながら、仕事として少年たちに俳句を教えるという状態が続いた。

何年か後に三重句会の会員の方々に、上手になってきたと言われる句が作れたころ、職務の異動で多忙となり、休会が続いた。

大分少年院の退職後、何時でも君の帰りを待っているとの先生の好意に甘え、再入会となる。

平成十年成清正之先生の「雲」に入会されていた三重町のKさんからこの句会はずばらしい是非参加しなさいと教えられ、身の程も考えず雲に入会した。ここでの勉強会は、温室育ちのような私には驚くことばかりだった。冗語を省き、自分の世界を持ち表現する技術の向上を主眼とするもので、その取得に長期間の試練が重くのしかかってきた。

足立雅泉先生からは、楽しさを求めないで何の人生か。智・情・創造を主に、ことばを結ぶことを教えていただいた。

成清正之先生からは、写生が基本である。写生から孤生する「描写・

表現」のいろいろの展開「想像力・創造力」を駆使して、自由に発想を楽しむを主眼に、今日的俳句はいかにあるべきかを、例句を参考に丁寧な指導を受けた。

少年院の矯正職員として、少年らと俳句を通して、さまざまな関係を持てたことは、望外の喜びと言える。

六十年間彼らと接しながら、正しいものの見方、考え方について、俳句を媒体として学び合えたことは、何にも勝る宝物である。手応えのある俳句が詠めたとき、拳を突き上げて喜ぶ少年の姿が心に残っている。

私の属している三重句会は、これまで足立雅泉先生が会長を務めてきたが、平成三十年六月に雅泉先生が九十一歳で亡くなられた。以来「この町の文化の灯を消せない」という雅泉先生の教えを継いで、私が三重句会の会長をすることになった。初参加の六十年前には考えもしなかったことで、人生の不思議さを噛みしめている。

正岡子規・高橋虚子・河東碧梧桐・芝不器男など多くの俳人を出している愛媛が私の出身地である。義姉もまた句集を出している。そんな俳句のDNAがあったから、多趣味の私でも長く続けられたのかもしれない。



《新会員紹介》

本庄 正克(杵築)

縁側の揺るる紫煙や冬陽射

竹下美津子(国東)

菰坊主義母は大事に紙くるむ

安田 文(国東)

プランコを押す孫の背は暖かい

原田 勝子(九重)

ショッピング師走の街に迷い込む

後藤久美子(九重)

大根や道の駅へと括られて

井上 則子(九重)

「ただいま」の声おさなくて盆の客

和田 明美(豊後大野)

※読者会員・梶原千代氏のお嬢様

《寄付及び発展基金振込》

(一口千円です。受付中)

・国東句会一同様

五口

・堀川かずこ氏

三口

・飯田 幸子氏

五口

《逝去謹悼》

佐藤 綾子 氏

9月5日逝去(享年86歳)

※佐藤綾子氏は平成6年から8年まで会計監査、同8年から14年まで幹事、同14年から20年まで常任幹事、同20年から30年まで副会長を歴任してこられました。句集に「根雪」「解凍の鯛」があります。

梅の蕾が身震いをする日出生台
ポインセチア一鉢の裏切りです

句会探訪⑧

九重町 さくら草句会

さくら草句会は平成22年、駒走松恵氏の呼びかけで結成された。松恵氏は地域の俳句文化向上に熱心な方で、平成24年に九重から大分に転居するまでは直接転居して令和元年に101歳で逝去されるまでは紙上で、さくら草句会の指導を精力的に行った。駒走松恵氏は県現俳協の会員



現在さくら草句会の会員は8名(うち県協会員6名)で、原田勝子氏が会長。アジサイ祭俳句大会の九重宝八幡宮の宮司、甲斐素純氏ご夫妻も、さくら草句会の運営に力を貸している。毎月第3水曜日午前10時から東飯田公民館で開催。句会の後は毎回手作りの弁当が用意される和気あいあいとした句会である。問い合わせは事務局か宝八幡宮まで。(撮影)

第1回雑詠句会作品募集

◇作品3句を、ハガキ、FAX、メール等でお送りください。

◇締切は令和3年2月19日(金)

当日消印有効

◇宛先は事務局まで(足立方)

◇11月発行の句会報11号に同封された「自薦作品選句用紙」を使い、すでに投句された方はこの限りではありません。今回同梱の句会報12

号に、投句済みの方の氏名を、念のために載せています。

◇ダブって投句された方は、日づけの新しい方を採用します。

《事務局より》

会員の活動や出版、受賞等を事務局までお知らせ下さい。

令和二年十二月二十九日発行
会報第百二十一号

発行人・有村 王志

発行所・大分県現代俳句協会

編集人・足立 攝



大分県現代俳句協会

OITA-KEN GENDAI HAIKU ASSOCIATION

会長 有村 王志

《事務局》

〒879-7151 大分県豊後大野市三重町西泉436

足立 攝 方

TEL.&FAX. 0974-22-3749 郵便振替 01900-5-57481

URL: <http://gendaihaiku.net>

E-Mail: info@gendaihaiku.net